

## 2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 1 月 26 日作成)

小委員会名	環境振動予測情報小委員会		主 査 名：山中 祐一 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：持田 灯 (主査名：松本 泰尚)
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>環境振動の予測に必要な情報の集約化・共有化を図り、予測の精度向上や簡便化に役立てることを目的とする。特に、実務者が困っている点の抽出と対応に重点を置いた検討を行い、成果を会員に公表して環境振動問題の改善に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度：2016 年に調査・報告した環境振動の実務者が困っていることに応える技術情報を提供するための活動方法や内容を定める。</li> <li>・2 年度：初年度に定めた活動を実施する。例えば、2018 年度に作成した予測解析検討例の予測・検証事例を追加し、下記①～③に関する情報を抽出する。</li> <li>・3 年度：2 年度までの検討結果等から下記①～③に関する情報で、会員に公表すべき内容を作成する。</li> <li>・4 年度：3 年度に作成した技術情報を会員に公表する。</li> </ul> <p>①目標値・安全率の設定 (設定根拠を説明できる指針等の要望) ②加振力の設定・実測 (データの蓄積やデータベースの公開を要望) ③応答予測モデルの妥当性確認 (特に地盤のモデル化)</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無し</p> <p>主査：山中祐一 (JR 東日本建築設計) 幹事：緒方誠二郎 (鹿島建設) 委員：朝日智生 (日建設計)、石田琢志 (戸田建設)、片迫幹男、佐伯兼久 (ヤクモ)、佐野泰之 (愛知工業大学)、鈴木健司 (清水建設)、田中靖彦 (安藤・間)、東田豊彦 (積水ハウス)、船積宏彰 (東急建設)、増田圭司 (フジタ)、松田貫 (BL 建設)、三橋祐太 (構造計画研究所)、三輪田吾郎 (大林組)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	無し		
2020 年度予算	21,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有り (環境振動運営委員会 HP 内に設置) 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/subcommittee3_control/AIJ_EVSC3index.html">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/subcommittee3_control/AIJ_EVSC3index.html</a></p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画 1 回 (2/16 予定) を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	無し
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	無し
大会研究集会	無し

対外的意見表明・パブリックコメント等	無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単純な構造（1スパン鉄骨造の床）の実測事例をもとに、各委員がブラインド解析を実施し、実測結果と比較することによって予測解析に必要な情報の整理を行った</li> <li>2. 環境振動の予測に対して、実務者が困っていることに応える技術情報を提供するための活動方針や内容に沿って、各委員が設定した環境振動予測問題に対して具体的なアプローチを行った</li> <li>3. 以上により、2年度活動計画で定めた目標は達成できた</li> </ol>
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境振動設計指針策定小委員会、WGとの連携作業</li> <li>2. 環境振動シンポジウム企画検討WGとの連携作業</li> <li>3. 小委員会成果の公表方法</li> </ol>

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2020年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価) 最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロナ禍においても Web 会議を活用して年4回の小委員会を開催した。</li> <li>2. 単純な構造（1スパン鉄骨造の床）の実測事例をもとに、各委員がブラインド解析を実施し、実測結果と比較することによって予測解析に必要な情報の整理を行った。</li> <li>3. 環境振動の予測に対して、実務者が困っていることに応える技術情報を提供するための活動方針および活動内容に沿って、各委員が設定した環境振動予測問題に対して具体的なアプローチを行った。</li> <li>4. 当初予定していた委員会開催数には達していないものの、次年度からの成果まとめに向けて必要な予測解析に関する情報の整理は、小委員会として達成できたと考えて総合評価は「A」とした。</li> </ol>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。